

# 03 まちなか暮らしの提案 ① - コンセプト -



**計画案のテーマ** 「大きな家」と「小さな家」を住み継ぐことで生まれる循環がつくり出す街並みのご提案。

## コンセプト

### ①住み継いできた歴史を繋ぐ

「街」とは本来どうあるべきなのでしょう？それは歴史ある街並みが教えてくれています。建築形態、地域、国に関わらず、歴史的な街並みに感じられるのは住み継いできた歴史であり、記憶です。その記憶や想いの積み重ねを仕舞い込む住まいの集積が街であるならば、街とは想いを繋いでいけるものでなくてはならないはずです。家族の記憶や想いを繋ぐ=住み継ぐこと、それが街並みを形成する重要な要素であると本提案では位置付けています。



高岡市金屋町



三重県関宿



沖縄県竹富島



フランス ポワシー

### ②家族の変化に合わせた土地活用

本提案では、ある架空の家族にスポットを当て、その生活の変遷と共に、博労町特有の間口が狭く奥行きが長い敷地形状の活用方法、そして現代に合った住まいのカタチと住み継ぎ方を探ります。



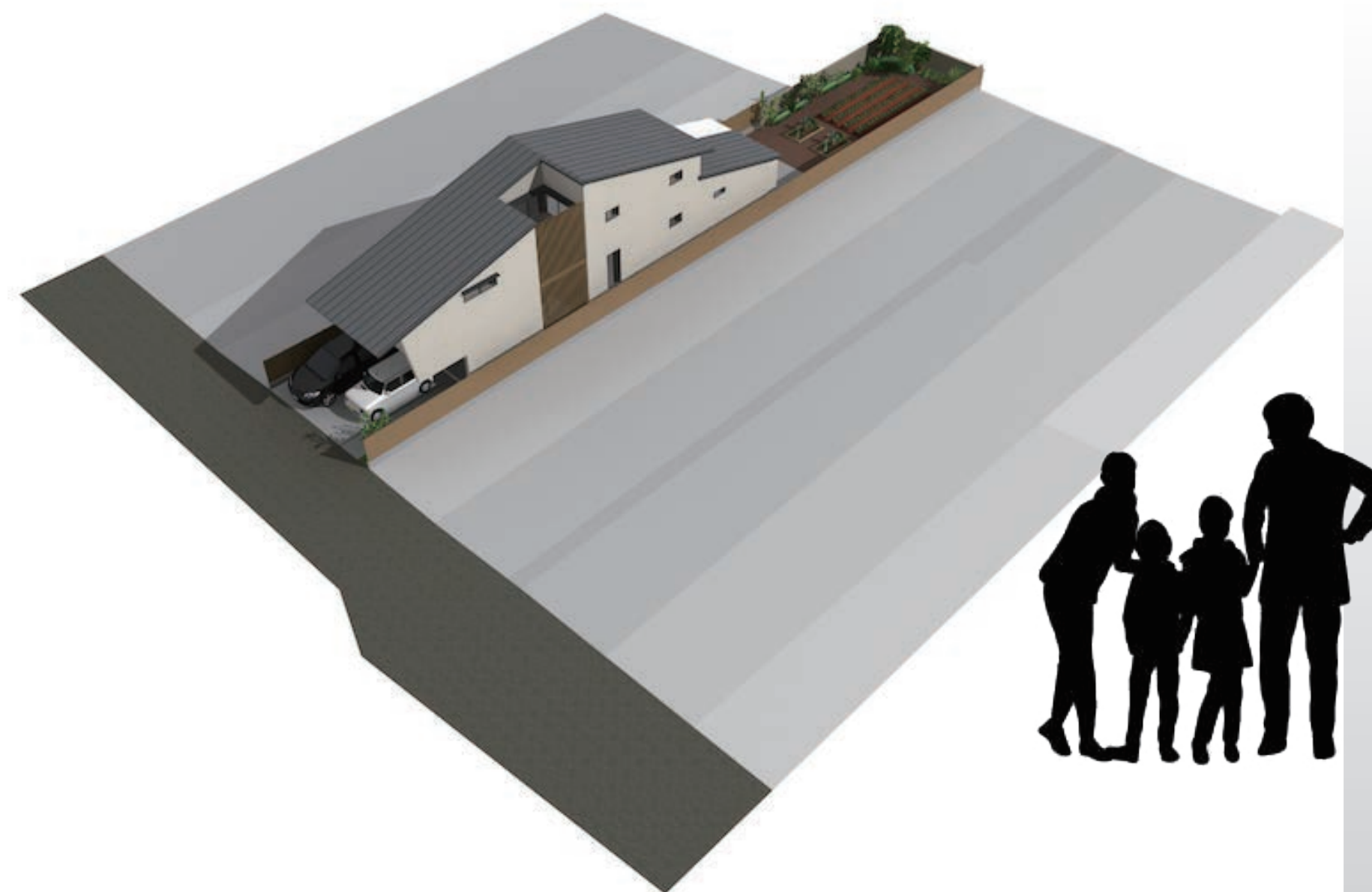
道路より敷地を見る



敷地より道路方向を見る

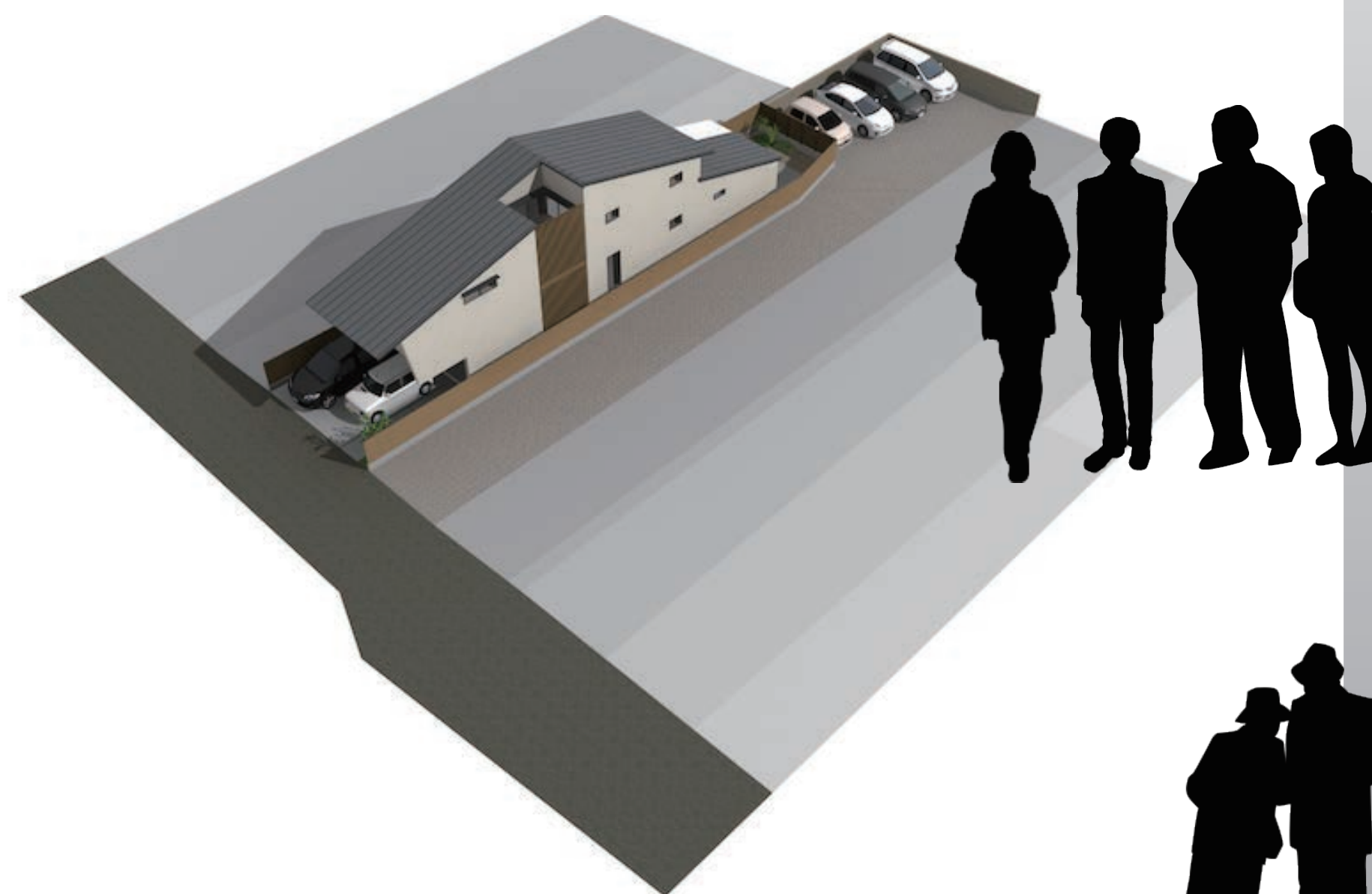
スタディーモデルとなる敷地はかなり奥行きが大きい

## 提案の概要



#### STEP1

2人の小学生の子供を持つ30代の夫婦が博労町に住まいを構えることになりました。中二階床と屋根の持ち出しで屋根付きのカースペースを安価かつ景観に配慮して確保し、敷地の奥行の長さは家庭菜園やBBQというアウトドアライフに活用することにしました。



#### STEP2

隣地が売りに出されることになり、将来の増築計画に備えて購入することにしました。購入した土地は既存の土地の奥部分と合わせて貸し駐車場として当面の間活用をすることにしました。その後1台分は富山の大学に通う子供の



#### STEP3

更に隣地が売りに出されたので、購入して両親用の小さな平屋を建てることにした。土地にかなり余裕があるので道路側の利用しやすい部分を第三者に売却することを検討。同じ形状の住宅を同時に建てる事が出来ればコストダウンに繋がるので、土地購入者と一緒に住宅の建設を行うことに



#### STEP4

ご両親が亡くなったことを機に、夫婦は平屋に移ることにし、2階建ての住まいは長男夫婦に譲ることにしました。

#### STEP5

2階建ての「大きな家」と平屋の「小さな家」を住み継ぐ計画が街に広がっていくことにより、風の通り道になり災害時の避難にも有効な通路を確保することができ、敷地周囲には適度な余白が徐々に増えていきます。それによって街全体での区画整理などをすることなく、空家のない住みやすい住環境にシフトさせることができます。